



全労連青年部ニュース

## YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

## 全労連青年部第30回定期大会開催



全労連青年部は、2017年9月23日～24日に全労連会館2Fホールにて第30回定期大会を開催しました。全労連布施恵輔常任幹事、民青同盟宅田葉月副委員長から来賓のあいさつをいただきました。

全国から集まった青年の活発な討論と交流により、青年ならではの取り組みや思いが旺盛に語られ、17年度方針の確立にむけ熱く議論を交わしました。メインスローガン「憲法9条守りたい 青年の思いあつめて ディーセントワーク実現へ」を確認しました。「働き続けられる労働条件を求めて声を上げよう」「平和憲法を守り『戦争する国』づくりをストップさせよう」「学び、つながりを活かし、組織拡大・強化を進めよう」「青年が将来に希望を持てる政治に転換を」の4つを柱とした方針を確立しました。また役員選挙を行い12人の役員を選出しました。

### 青年の取り組みと現状



一日目は、憲法・平和、組織拡大、労働法制の取り組みについて岐阜県労連、生協労連、道労連からリード発言が行われ、そののち分散討論が行われました。分散討論では「学習会だけではなく、署名の読み合わせをしてそのまま署名を集めるという活動をしている。ツアーなどお出かけ企画にすると人が集まる」「新歓イベントを企画し、組合はこんなのだよと伝えている。チラシの配布や研修で組合の説明をしたり、チョコに組合のQRコードを印刷して配布したりした」などの活発な意見が

交わされました。

二日目の全体討論では「今年是对話に力を入れた。役割分担をして、事務所訪問を2回にわたって行った。直接顔を見て活動をアピールすること継続して行っていきたい」(東京)、「(東海北陸ブロックの)サマーセミナーは各県青年部の立ち上げを目指して開催している。以前は2名の実行委員だったが、今回は11名に増えた。サマセミをきっかけに各県青年部が盛り上がりしてほしい」(静岡)、「最賃の取り組みについては、最賃審議会への意見書提出や宣伝、奨学金アンケートなどの取り組みを行った」(愛媛)、「昨年12月に沖縄で見て聞いて学んでつながろうと企画を開催した。その後、秋田の青年が東京の平和ツアーを行うなどの広がりも出てきた」(全教)など青年部活動の現状、青年ならではの取り組みや思いが旺盛に語られました。



### 工夫を重ね大きく羽ばたいてほしい

八重田景子副部長が総括答弁を行い「青年の要求から出発して、やりたいと思ったことをやる、元気な姿をみせられるのがいい。組織拡大についてみんな頑張っている、発言から得られた経験を持ち帰って、さらに工夫を重ねて大きく羽ばたいてほしい。青年の要求実現のために、総選挙へ向けて一步を踏み出そう」と述べました。続いて青年企画コンテストの表彰式が行われ17のエントリーの中から参加者全員の投票によって岐阜県労連青年部(1位)、愛媛労連青年部(2位)、自治労連青年部(3位)がそれぞれ選ばれました。

最後に青山泰希常任委員の音頭で会場全員の団結ガンバロー!で大会を締めくくりました。



# 大会宣言

安倍政権は、「世界で一番企業が活動しやすい国」へと「残業代ゼロ」「消費税増税」「労働法制の改悪」などを押し進めるとともに、共謀罪を施行させ、憲法9条改悪を目論むなど「戦争する国」に変えようと動きを加速化しています。また、森友学園・加計学園問題に見られる、政治・行政の私物化疑惑隠蔽のため、臨時国会での追求を避けようと衆院解散・総選挙に踏み切ろうとしています。このような情勢の中で全労連青年部第30回定期大会は開催されました。

大会討論では、憲法平和・組織拡大・労働法制の取り組みを軸に、代議員自身が職場での働き方や青年部活動について語りながら、青年ならではの取り組みや思いが旺盛に語られました。

平和グッズを普段から身につけて平和を訴えたいとの思いから、お洒落なグッズを作成し、その取り組みが自分たちの繋がりが無い所まで広がっている喜びと経験が語られ、参加した代議員からも、「やりたいと思ったことをやる」「思ったことを形にする」大事さに感銘を受けたことが語られました。

組織拡大・組織強化の取り組みでは、「ワールドカフェ」などを通して、青年が「私はこう思う」ということを自由に語ることと、青年の主体性を引き出す場づくりの大切さが語られました。青年の活動の輪が広がり、全国の青年運動が活性化している様子がなかまに伝わり、大会代議員からも持ち帰り企画したいという思いも語られました。

労働法制改悪反対や最低賃金を上げたいとの思いから実施しているサウンドデモの取り組みでは、青年が楽しみながら参加し、沿道からもデモを応援する声上がるなど、貴重な経験が共有されました。

青年が青年のために開催した様々な企画の中で参加者自身が「自分だけの悩みじゃない」「仲間がいる」ことを知り、翌日からの運動への力に変えています。青年が集まり、悩み、時には意見をぶつけあいながら目標に向かう体験が、青年を着実に成長させ、青年の声や思いを具体化し、活動の活性化に繋がっています。また、核兵器禁止条約が国連で採択された歴史的成果によって、被爆者や多くの仲間の運動から、あきらめずに粘り強く運動することで「変えられる」ことを学び、確信にも繋がっています。

青年の思いを実現するためには、多くの仲間とつながり、あきらめずに仲間と一緒に模索しながら行動を起こすことが重要です。青年自らが組合運動をつくっていく主人公として活躍していきましょう。

全労連青年部は全力で奮闘することをここに宣言します。

2017年9月24日  
全国労働組合総連合青年部第30回定期大会

